

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスぶれお		
○保護者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	良い行いや言葉遣いなど、相手の気持ちを考え自分の気持ちをコントロールできた場面を見たときはその場で称賛し、褒められる喜びを感じ、自己肯定感がアップするように支援している。	口頭での称賛ではなく個々に称賛のノートを用意し本人たちの好きなキャラクターを添えて、日々の頑張りを認める言葉を書いて一緒に見ている。また、ポイント制を用いながら、意欲を持って良い行動が出来るように支援している。	引き続き、取り組んでいき、自己肯定感の向上を目指し、取り組んでいきます。
2	余暇の充実に重きを置いている。興味のある物や好きな物をリサーチしている。グループ活動に繋がるように支援している。	提供しているタブレット等は、複数の人が使うので順番があることを伝え、片付ける場所の提示やタイマー等を使って時間を守ることを約束している。職員やお友達と一緒に遊ぶ楽しさを体験できるように順番やルールを視覚的に分かりやすくしている。	職員も一緒に楽しさを共感していくことが大切だと考えています。実際に一緒に体験することで、子供たちに合ったルール作りができると考えています。
3	学校や事業所での困りごとを「○○さんトークタイム」「○○さんからのお話」の活動を行い、思っていること伝える時間を作っている。自分の気持ちを表出するのが難しいため、気楽に気持ちを伝えられるように支援している。	「個別課題」「先生とお話」では、何かした？怒られる？と思うお子さんもいたので柔らかなネーミングにし、本人の気持ちを優先しながら話を聴き、その中で職員の思いや考えを文字や絵を使って伝えるようにしている。	引き続き、取り組んでいき、自分の気持ちを伝えることの大切さや安心感を感じてもらえるように取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別のスペース不足	高学年になると体も大きくなるので、余暇スペースや個人の持ち物を置くスペース等も手狭になっている。中・高校生になると替えることがあるので、個別には更衣室を用意できていない。	スペースの使い方や頻りに使用していないスペースを再構造化する。更衣室には順番表を使い、待合に椅子等を用意する。
2	運動面と場所の確保	運動器具が充実していたが、補充できずにいる。室内では走ったり、跳んだりするスペースがない。体を動かす活動を苦手とするお子さんもいる。	限られたスペースでも活動できるように、握力、腹筋、スクワットなどに取り組んでいます。長期休みには、体を動かすことができる公共の施設を利用している。
3	保護者への対応	業所内での様子は、口頭や連絡ノートにてお伝えしているが、実際の様子を見ていないので分からないとの声が上がっている。法人のSNS等には行事の写真は載せているが、保護者の方への周知不足もあってと思う。	活動内容を通信などを作成していこうと思う。参観週刊を設けて保護者の方に見学に来ていただこうと思う。